

三國峠の國道改良工事起工式が 盛大に擧げらる

三 國 生

昭和十六年七月三日、國道第九號線（三國峠）の改良工事起工式を奥利根河畔の新治村新卷國民學校に於て、内務大臣代理萱場次官閣下を始め朝野の名士約八百名を迎へて盛大に擧行された。依つて本工事の計畫概要より盛典の状況を叙述致しませう。

本國道は東京市より埼玉縣を経て群馬縣に入り、高崎市に於て第十號線を分岐し前橋市澁川町を経て北に進み、後閑驛より左に折れて西に進み、上越國境の三國峠の嶮を越え新潟縣南魚沼郡三國村に入り、更に信濃川支流の魚野川流域に出で越後湯澤驛に於て上越線に合し、之と並行して西に進み小千谷、長岡市等の都市を経て新潟市に達する所

謂表裏日本を結ぶ樞要路線たるのみならず、東京及滿洲國の首都新京を結ぶ最短ルートとして、近時其の利用益々頻繁を加ふるに至りたる新潟港經由の日滿連絡の要路に當りて交通上極めて重要な幹線である。

國道第九號線は其の昔東京より大宮、高崎、前橋を過ぎ清水越を経て新潟縣廳に達する路線にして、清水越の改良工事は明治初年に施行せられたが、地勢急峻にして且つ積雪多かりし爲間もなく廢道化するに至つた。

然るに近年日滿連絡上重要性を帯びるに至つたので、三國街道筋を経過する路線に變更すると共に、之が改良計畫を進めて來たのである。

依つて本計畫によりて改良せんとする區間の中心地である三國峠は、東京市を距るゝこと約百八十五軒（新潟市よ



り百六十五

軒）國鐵上越

線後閑驛（東

京側）及越後

湯澤驛（新潟

側）より夫々

二十八軒の地

點に在りて交

通は極めて不

便なる僻遠の

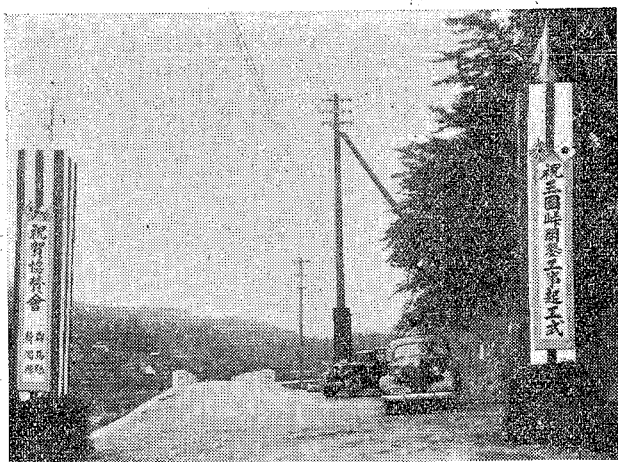
地なれども、

本道は古來三

國街道と呼ば

れ大同年間（約一千年前）の開設に係るものと稱せられ、昔時越後より關東に出づる唯一の街道として徳川時代には

相當人馬の往來殷賑を呈したり。然るに其の後國鐵信越上越兩線の開通に依り往來は殆ど絶ゆるの狀態となり、且つ



峠附近には幅

一、二尺、勾

配五分の一の

急坂多く而も

冬期は積雪丈

餘に及ぶ所あ

りて、全く樵

路に過ぎるの

現狀である。

道路の改良

は物資の輸送

と生産力の擴

充と相並んで

高度國防國家體制確立上の重要問題である。殊に本國道は叙上の如く輓近著しく其の重要性を加へつゝある日滿連絡

上の要路とし、朝野相呼應して之が改良の急務を叫ばれて居た處、路政當局の苦心と關係者の盡力とに依りて本改良計畫が樹立せられ今日起工を見るに至つたことは洵に慶賀に堪へざる次第である。

即ち改良せんとする箇所は自動車交通の不能なる區間の群馬縣利根郡新治村大字吹路より新潟縣南魚沼郡三國村大字淺貝に至る延長一六、二〇〇米の區間にして、有效幅員六米、屈曲箇所は半徑に應じ増大し、路面はコンクリート舗裝とし隧道、橋梁等を設け六ヶ年の繼續事業として工費金二百十四萬圓を以て施行せんとするものである。

本事業の芽出度き發足の日を迎へた昨夜前橋地方に大雷雨ありたる爲、今朝は涼風そよ／＼と吹き周圍の連山も青々として涼味を帯び實に起工祭日和である。早朝より係員の出勤に依り場内の準備萬端調ひ來賓の到着を待つ午前九時頃より來賓續々と來場今朝東京を御出發された萱場次官閣下の一行も恙なく御到着正十時卅分祭典は開始せられた

式 次 第

- | | |
|--------------------|-----|
| 一、參列員着席 | |
| 一、齋主以下着席 | |
| 一、修 祓 | |
| 一、降神ノ儀ヲ行フ (諸員起立聲折) | |
| 一、神饌ヲ供ス | |
| 一、齋主祝詞ヲ奏ス (諸員起立聲折) | |
| 一、祭主 内務省東京土木出張所長 | 拜 禮 |
| 三國峠開鑿工事主任 缺入ノ儀 | |
| 一、祭主玉串ヲ奉リテ | |
| 一、祭主内務省東京土木出張所長 | 同 上 |
| 一、内務大臣 | 同 上 |
| 一、土木局長 | 同 上 |
| 一、三國峠開鑿工事主任 | 同 上 |
| 一、群馬縣知事 | 同 上 |
| 一、新潟縣知事 | 同 上 |
| 一、群馬縣貴衆兩院議員總代 | 同 上 |
| 一、新潟縣貴衆兩院議員總代 | 同 上 |
| 一、群馬縣會議長 | 同 上 |

一、新潟縣會議長 同上

一、群馬縣地元新治村長 同上

一、新潟縣地元三國村長 同上

一、來賓總代 同上

一、神饌ヲ撤ス

一、昇神ノ儀ヲ行フ (諸員起立磬折)

起 工 式

一、内務省東京土木出張所長 一式辭

一、内務大臣 告辭

一、新潟縣知事 祝辭

一、群馬縣知事 同上

一、新潟縣貴衆兩院議員總代 同上

一、群馬縣貴衆兩院議員總代 同上

一、新潟縣會議長 同上

一、群馬縣會議長 同上

一、新潟縣地元三國村長 同上

一、群馬縣地元新治村長 同上

一、來賓總代 同上

一、道路改良會其他ノ祝電

一、總員退出

式後同所に於て萱場次官閣下を始め來賓一同臨席の下に協賛會主催の祝賀會が開催せられ、協賛會長群馬縣知事の喜びに満ちた挨拶と萱場次官の祝辭の後開宴、時節柄極く質素なる宴に祝杯を舉げて今日を祝ひ本事業の成功を祈念し、斯くて新潟縣知事の發聲にて萬歳を三唱して午後二時盛會裡に芽出度く終了した。

告 辭

九號國道三國峠開鑿工事準備成り本日茲ニ起工ノ式典ヲ舉ク寔ニ欣快トスル所ナリ
抑々本國道ハ帝都ト新潟港トヲ繋ク最捷路ニシテ國運ノ進展ニ伴ヒ日滿連絡ニ資スルハ勿論軍事、産業上最重要ナル幹線道路ナルニ拘ラス三國峠ノ峻嶮行路ヲ阻ミ時局下自動車運輸交通ノ需要ニ副ハサルコト夥シ
仍テ政府ハ茲ニ本國道ノ天嶮ヲ克服シテ此ノ要求ニ應

セントス

惟フニ本事業完成ノ曉ニ於テハ沿線地方ノ開發ト相俟テ東京新潟間ノ交通ニ一大革新ヲ齎スニ至ルヘシ冀クハ從務各員不斷ノ努力ト關係官民ノ熱誠ナル協力トニ依リ速ニ所期ノ目的ヲ達成セムコトヲ一言述ヘテ告辭トス

昭和十六年七月三日

内務大臣 男爵 平 沼 騏 一 郎

式 辭

本日茲ニ國道九號線三國峠開鑿工事起工ノ式典ヲ舉クルニ當リ、諸賢ノ御臨場ヲ辱フシタルハ、洵ニ欣幸トスル所ナリ

本國道ハ帝都ヨリ埼玉群馬兩縣ヲ經、上越國境三國峠ノ嶮ヲ越ヘ、新潟縣ニ通スル路線ニシテ改良工事區間ハ古來三國街道ト呼ビ遠ク大同年間ノ開鑿ニ係ルモノト稱セラレ往時ハ越後地方ト關東トヲ結ブ唯一ノ通路トシテ人馬ノ往來殷賑ナルモノアリシガ、急峻ニシテ屈曲多キ難路ノタメ近時ニ於テハ交通殆ント其跡ヲ絶チ路面ハ愈々荒廢スルニ至レリ

殊ニ峠ノ前後約十四杆間ハ全ク車ヲ通ゼズ地勢峻嶮ニシ

テ幅員亦狹隘漸ク歩行シ得ル樵路ニ過ギザルナリ

由來本街道ハ表裏日本ヲ連絡スル重要幹線ナルト共ニ事變下ニ於ケル物資ノ輸送、産業ノ開發ニ至大ナル使命ヲ有シ、近時日滿連絡上ノ最短通路トシテ一段ノ重要性ヲ加フルニ至リ之ガ改良ハ焦眉ノ急トシテ一段ノ翹望熈マザル所ナリシガ政府亦其必要ヲ認メ今回ソノ工ヲ起スニ至レルハ洵ニ機宜ヲ得タルモノト謂フベシ

然シテ其ノ改良工事區間ハ三國山峽ノ天嶮ヲ含ム約十六杆餘ノ難所ニシテ之ニ近代的ノ工法ヲ加ヘ以テ高速ノ交通並ニ貨物ノ輸送ニ支障ナカラシムルニアリ

惟フニ本工事完成ノ曉ハ帝都上越間ノ交通連絡ニ一大變化ヲ齎ラシ且地方産業ノ開發進展等ニ貢獻スル所尠カラザルモノアルベシ

然レ共工事區間ハ峻嶮ナル山間僻遠ノ地ニ屬シ資材ノ蒐集其他工事ノ施行上幾多ノ困難ヲ來スコトヲ豫期セザルベカラズ、冀クハ官民一致協力以テ其完成ニ努メラレンコトヲ一言以テ式辭トス

昭和十六年七月三日

内務省東京 内務技師從四位 鈴木 雅次
土木出張所長 勳三等